

いて、合併することによって、本圏域の人口が増加するとの見方は、論拠が明確でない。1市3町の定住人口は減少しているが、本町への交流人口は、近年確実に増加しており、萩三隅高規格道路や秋芳三隅線など、新たな道路網整備等によって、本町には、更に交流人口の増加が期待できるとの声もある。

次に、合併によって、財政基盤が強化されるとの議論は、自主財源に乏しく、地方交付税や地方債などの依存財源比率の高い本圏域では、将来的な財政力がどうなるかは、指標とする資料がないために判断できない。むしろ、財政問題についての住民の関心事は、合併後、毎年度どれだけの予算枠が三隅のために確保されるかに尽きると思われる。三隅町の財政規模は、一般会計・特別会計合わせて、毎年度概ね500億円程度である。10年間で500億円。合併後、三隅のために同等規模の市の予算が投下されるという確証があるかどうか。1市3町の社会資本整備の均衡を図るためには、合併後、相当長期にわたって調整の年月を要する。本町の生産基盤や生活環境の整備水準は、県下の町村平均を上回っているとの見方が委員の中に多い。合併すると、当分の間、三隅への行財政投資が滞るのではないかと、危惧する声が多い。

本検討会は、町長からの諮問に対して、延べ5回の検討会を開催した。回を追うごとに、委員の多くから、合併問題を判断するための資料不足や情報不足が指摘され、検討会として、広く民意集約のための会議を興すには至らず、現時点では、委員個々の意見を述べるにとどまった。委員の内、三隅町消防団、三隅町商工会などでは、合併に対する意向調査が実施され、検討会にその結果が発表された。これらの団体からは、その結果について、答申書に反映されたいとの要請があり、検討会でこれを了承したので、議事録の補足資料として添付する。

本検討会では、当初、本年8月に町長に答申を行う予定であったが、長門市、大津郡各町の取組状況等に鑑み、当初予定の答申時期を繰り延べるに至った。検討会に付された「民意の集約」は非常に困難で、検討会として、住民の総意をまとめるには至らなかった。

最後に、合併論議を通じて、多くの町民が「ふるさと三隅」を再発見し、この町に限りない愛着と誇りを持っていることを強く印象づけられたことを付言して、答申とする。(本文横書)

### 3、論議の経過と添付資料



〔検討会の開催年月日〕

- 第1回検討会 平成8年2月16日
  - 第2回検討会 平成8年2月27日
  - 第3回検討会 平成8年3月28日
  - 第4回検討会 平成8年5月30日
  - 第5回検討会 平成8年11月19日
- 〔添付資料〕
- ・メリット・デメリット論
  - ・三隅町消防団意向調査結果
  - ・商工会による意見集約
  - ・広域合併&広域連合制度
  - ・合併問題検討会設置要綱
  - ・委員名簿
  - ・委員の出席記録

## 委員名簿

平成8年2月16日、5月20日 三隅町長委嘱

自治組織	自治会連絡協議会(池信宏證)、上地区発展対策協議会長(山下 榮)
産業部門	農区連絡協議会長(谷村 孝)、農業委員会(大野耕作)、森林組合組合長(阿邊兼次)、野波瀬漁協組合長(宮崎茂之)、小島漁協組合長(小西誠治)、商工会長(篠原 勝)、商工会青年部長(宗本浩二)、農協三隅支所長(古屋輝夫)
教育関係	教育委員代表(蔵本 覚)、社会教育委員代表(三好ヒナ子)、文化財専門委員代表(齊藤元宣)、PTA会長(松野吉邦)、PTA女性代表(深田文子)、体育指導委員代表(石村寛行)、社会体育推進委員代表(中嶋 稔)
福祉関係	社会福祉協議会長(増田琢雄)、民生児童委員会総務(長峯不可止:熊野 正氏代理出席)、母子寡婦福祉会長(和 伊津子)
各種団体	消防団長(山本和光)、青年団長(大迫 聡)、婦人会長(田村不二代)、老人クラブ連合会長(中野市江)、ふるさとづくり推進協議会長(大谷忠義)、体育協会会長(山根邦男)
自主グループ	躍開門代表(金子宏道)、明愛会会長(山縣正幹)、創遊倶楽部代表(西村良一)、一揆会代表(田村弘行)
識見者	徳田照子(前婦人会長)
以上 31名	
〔団体の長交替により、途中で交替された委員〕	
農業委員会(杉山 昭)、商工会青年部(馬場誠治)、社会教育委員代表(椋木清英)、PTA会長(太田幹夫)	

